No39　祈り０１

義髙　亙

　自分が 50 歳を過ぎるまで開発したアプリやアニメは子供たちの学習を支援するものでした。

AI ワープロ　ドローアプリを開発して教育で学習したりグラフコンクールの制作をしたり、あるいは学習のためにシュミレーションや学習アプリ、作業支援アプリを制作したりでした。

　支援の必要な子供たちを実態把握していくと他の可能性があることがわかりました。

それはアプリやアニメを子供たちと一緒に制作する学習の可能性でした。これは特支学級で担当した R 君の実態把握です。障害が軽くない生徒と見られていました。しかし実態把握をチャート化したり、数値を比較したりするうちに、彼の空間認識と再現力の高さを見つけることが出来ました。

いろいろな試行錯誤をしてみたところ、見た物を自分の感覚で描く描画能力に大変優れていたことがわかりました。

　当初はその描画能力を生かすため学習パズルなどを作成していました。彼は一度見た物を自分の感覚を加えてしっかり短時間で描き表す事が出来ました。一度見た物を精確に描くことが出来る自閉症のサバトという状態に似ていると感じました。的確な指示があれば、一日に絵を 30 枚近く描けました。

　私は学習アニメを制作して評価もいただいていましたので、彼と一緒にアニメを制作する学習活動をしてみようと考えました。

　昔のアニメなら絵だけ描けば出来るかもしれません。ですが今は手書きであってもパソコン等で仕上げます。勘だけでなく詳細な分析とプランが必要です。

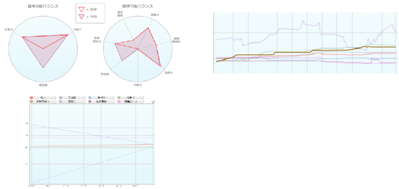
　R 君の描画能力を描画速度、被描画可能物、色彩感覚等多岐にわたり実態把握を行い、適した制作方法と描画対象物を検討して制作活動を始めました。彼の最も優れた長所を生かした活動は意欲につながり、積極的な原画制作が出来ました。アニメ制作は非常に時間がかかります。

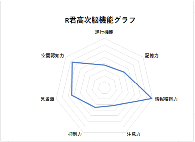
AI ワープロ ドローソフト データベース
アプリ･アニメは学習を支援するもの

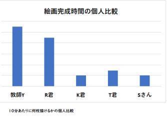
⇩

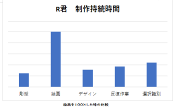
アニメ･アプリを子供と一緒に制作
学習活動になる可能性

実態把握を行いながら
生徒にとって最適な制作方法を検討

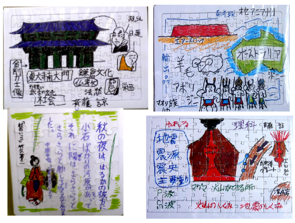




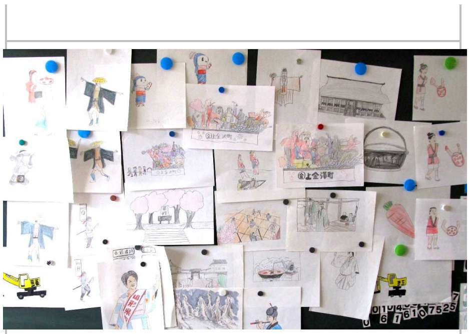


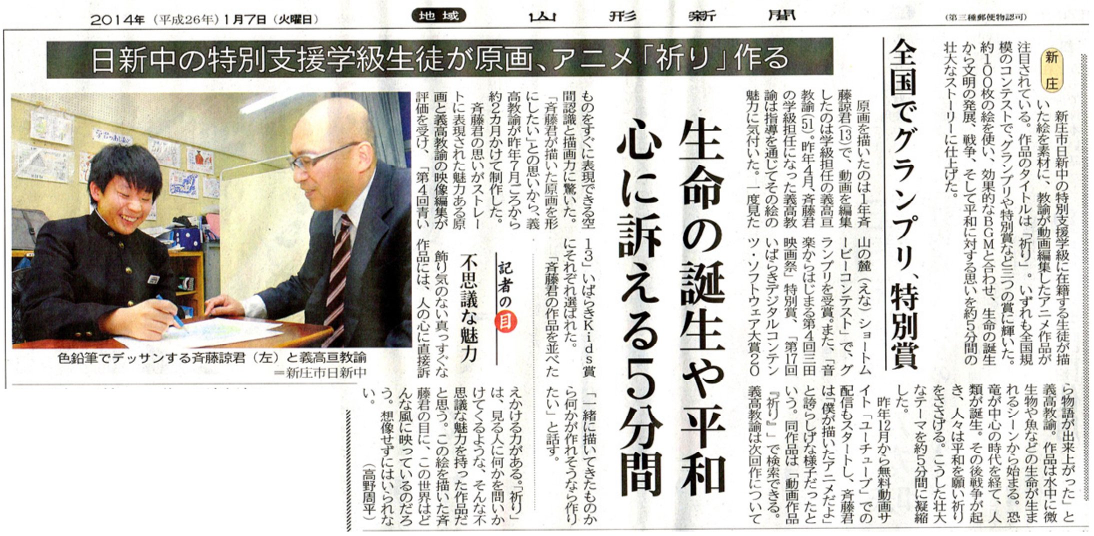


描画能力の高さを生かして
学習パズルを制作してきた



日々生徒と制作に向かってもがき続ける生活が続きましたが、幾つかアニメなどの制作物が出来ました。





2014年（平成26年）1月7日（火曜日）　地域　山形新聞　（第三種郵便物認可）

日新中の特別支援学級生徒が原画、アニメ「祈り」作る

全国でグランプリ、特別賞

生命の誕生や平和　心に訴える5分間

新庄　新庄市日新中の特別支援学級に在籍する生徒が描いた絵を素材に、教諭が動画編集したアニメ作品が注目されている。作品のタイトルは「祈り」。いずれも全国規模のコンテストで、グランプリや特別賞など三つの賞に輝いた。約100枚の絵を使い、効果的なBGMと合わせ、生命の誕生から文明の発展、戦争、そして平和に対する思いを約5分間の壮大なストーリーに仕上げた。

原画を描いたのは1年斉藤諒君(13)で、動画を編集したのは学級担任の義高亘教諭(51)。昨年4月、斉藤君の学級担任になった義高教諭は指導を通じてその絵の魅力に気付いた。一度見たものをすぐに表現できる空間認識と描画力に驚いた。「斉藤君が描いた原画を形にしたい」との思いから、義高教諭が昨年7月ごろから約2カ月かけて制作した。

斉藤君の思いがストレートに表現された魅力ある原画と義高教諭の映像編集が評価を受け、「第4回青い山の麓（えな）ショートムービーコンテスト」で、グランプリを受賞。また、「音楽からはじまる第4回三田映画祭」特別賞、「第17回いばらきデジタルコンテンツ・ソフトウェア大賞2013」いばらきKids賞にそれぞれ選ばれた。

「斉藤君の作品を並べたら物語が出来上がった」と義高教諭。作品は水中に微生物や魚などの生命が生まれるシーンから始まる。恐竜が中心の時代を経て、人類が誕生。その後戦争が起き、人々は平和を願い祈りをささげる。こうした壮大なテーマを約5分間に凝縮した。

昨年12月から無料動画サイト「ユーチューブ」での配信もスタートし、斉藤君は「僕が描いたアニメだよ」と誇らしげな様子だったという。同作品は「動画作品『祈り』」で検索できる。

義高教諭は次回作について「一緒に描いてきたものから何かが作れそうなら作りたい」と話す。

色鉛筆でデッサンする斉藤諒君（左）と義高亘教諭＝新庄市日新中

記者の目

不思議な魅力

飾り気のない真っすぐな作品には、人の心に直接訴えかける力がある。「祈り」は、見る人に何かを問いかけてくるような、そんな不思議な魅力を持った作品だと思う。この絵を描いた斉藤君の目に、この世界はどんな風に映っているのだろう。想像せずにはいられない。

（高野周平）

END